



なつのかも



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

第155号 (R4. 9. 1)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

大人も子供も互いに学び、共に育つこと

校長 宮林 伸之

日中はまだまだ厳しい暑さの残る夏の終わりです。子供たちの元気な声が戻ってきて、学校は一気に活気付きました。

今年の夏も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って外出を自粛されたご家庭もあったのではないのでしょうか。そのため、親子で家の中で過ごす時間が増えたのではないのでしょうか。

どうしても子供と一緒にいる時間が長くなると子供の言動に一喜一憂しがちです。夏休みになって遊ぶ機会が増えたと喜ぶお子さんがいる反面、イライラが募ってしまった親御さんも多くいたのではないのでしょうか。

さて、「マルトリートメント」という言葉をご存じでしょうか。

マルトリートメントは、「不適切な養育」を意味します。人格を否定する言葉を子供に言う、兄弟間や友達と比較する、子供の目の前で夫婦喧嘩をする、子供を無視する、などが相当します。親が「しつけ」の一環として行った言動でも子供の心が傷ついたなら、マルトリートメントになります。また、虐待はマルトリートメントの程度や頻度が大きくなったもので、地続きの関係にあると言われています。

マルトリートメントを受け続けると、子供の脳は傷ついたり、変形したりしてしまうそうです。脳科学者で臨床医でもある友田明美さんはハーバード大学と共同で、虐待が脳に与える影響を調べました。虐待を受けた経験がある1500人の中から「体罰」「暴言」など特定の行為のみを受けた人を抽出し、MRIで脳の画像を撮影して分析し、虐待を受けていない人の脳と比較したところ、脳の特定の部位に「萎縮」や「肥大」といった変形が見られることが分かったのです。例えば平均で8年間、あざができるほどの厳しい体罰を受けたグループでは、理性をつかさどる脳の前頭前野の一部が平均19%萎縮していました。

以前は、脳が傷ついてしまうと、もとに戻すことができないと考えられていましたが、近年、脳の傷は修復することができると認識が変わってきました。

では、傷ついた脳を修復するにはどうしたらよいのでしょうか。それは、親子のコミュニケーションに関係します。修復のポイントは「アタッチメント（愛着）」で、親と子の絆です。

以下の三点を意識することが大切です。

- 1つは、「目と目を見つめ合うということ。」視覚入力
- 2つは、「手と手で触れ合うこと。」触覚入力
- 3つは、「微笑む、あやす、語りかけること。」聴覚入力

この三つの行動がアタッチメント（愛着）を形成し、子供は安定した発達をしていきます。

例えば、積極的にお子さんに声をかけたり、具体的に「〇〇できて偉いね」と褒めたりすることで脳の傷を修復することにつながるのです。また、手をつないだり、抱きしめたり「スキンシップ」をすることもよいそうです。このことで子供は、ぬくもりに包まれて安心感を得られます。一方で親も脳が活性化し、オキシトシンというホルモンが分泌され、穏やかな気持ちになれます。

新型コロナウイルス拡大の影響下、国立成育医療研究センター「コロナ×こどもアンケート第7回調査」の報告書に「(子供たちが)大人たちに望むこと」として以下のように記されていました。

- 【母親、父親、両親、家族へ】・話を聴いてくれるときはもっと熱心に話を聞いてほしい。 ・もっとほめてほしい。
・接してくれるときはいつも優しくしてほしい。 ・お家に一緒にいてほしい。 ・一緒に遊んでほしい。
【先生、学校へ】・話をきちんと聞いてほしい。先生が忙しそう。 ・もっと子供の考えを聞いてほしい。
・一人一人の気持ちを尊重してほしい。 ・怒鳴らないでほしい。

子供の声に耳を傾けていると大人が見落としがちな視点や、深く考えてこなかった大切な問題に気付かされることがあります。私たち大人こそが、子供たちに学ばなければならないのかもしれないかもしれません。「教育」は「共育」と言われます。大人も子供も互いに学び、共に育つことを意識して2学期をスタートしたいと思います。